

第5学年「音楽」の学力向上のための方策

児童の実態（成果と課題の分析）

- 成果** ○ 音楽活動に意欲的に取り組むことができる。
○
- 課題** ▼ 歌唱は、技能に個人差があり、声にまとまりがない。
▼ 器楽は、感染症対策による経験不足から、技能に課題が見られる。

指導の重点（身に付けさせたい力）

- ◇ 正しい音程で丁寧に歌う力。
- ◇ 思いをもって表現する力。
- ◇ 器楽の活動に粘り強く取り組む力
- ◇

具体的な改善策

- リズムカードや音符カードを活用し、常時活動として授業に取り入れる。
- 音程を視覚的に表す表示を使用し、正しい音の高さを示す。
- 感染対策を徹底しながら、個別指導で児童の課題に応じた指導を行い、児童の自己肯定感を高める。
-

達成目標

- 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。
- 音楽表現を考えて表現に対する思いや意図をもつことや、曲や演奏のよさなどを見いだしながら音楽を味わって聴くことができるようにする。
- 主体的に音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを味わいながら、様々な音楽に親しむとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしようとする態度を養う。